

2017年10月25日

## 京王プラザホテル ニュースリリース

 京王プラザホテル フィーチャー100  
 ～おもてなしの裏側にある、ちょっといい話～

京王プラザホテル（東京：西新宿、社長：山本護）は、2021年に開業50周年を迎えます。そこで、世界各国からお客様をお迎えし、心に寄り添うサービスを提供するホテルとして私たちのおもてなしに秘められたエピソードを100回シリーズでお届けしてまいります。

**■VOL. 15 アート探訪1 染め・墨・漆**

「日本庭園」に見立てて構成された、最上級クラブフロア「プレミアグラン」のクラブラウンジ。流れる水や吹き込む風、差し込む光など自然のモチーフをテーマに、染めや墨、漆など日本の伝統工芸で憩いの空間を彩るのは、現代のアーティストたちの作品です。張りりと柔らかさを備えた漆のつやと造形がラウンジ中央でひときわ存在感を放つ石塚源太氏の「つやのふるまい」やさまざまな水の表情を躍動感あふれるタッチで表現した岡博美氏の藍染め、また墨と顔料で大胆に描かれた線とにじみに生命力を感じさせる酒井祐二氏の画など、伝統的な技法で表現されたコンテンポラリーな作品がふんだんに。独自の世界観のなかに和の感性が息づくアートの庭めぐりを、ぜひお楽しみください。


**■ VOL. 16 アート探訪2 和紙アート**

ユネスコの無形文化遺産に登録されるなど注目を集める「和紙」。最上級クラブフロア「プレミアグラン」のクラブラウンジでは美しい和紙アートが空間に豊かな表情を添えています。ラウンジに足を踏み入るとまず目に飛び込んで来るのは窓越しに広がる大パノラマと、遠くに見渡せる山並みをイメージして描かれた越前和紙の雄大な作品。職人さんが一枚、一枚丁寧に仕上げたもので、金粉や真珠を砕いた粉をまぶし淡い色彩を表現しています。同じ作品がラウンジゾーンとライブラリーゾーンにもあり、手仕事ならではの表情の違いを味わってみるのも一興です。またダイニングゾーンとの間のガラスに配された和紙アートは、日本文化の1つである藍染を徳島県産の手漉き和紙で表現した作品。和紙のアートがもつ品と温もりにもぜひ触れてみてください。



本件に関するお問合せ先：

株式会社京王プラザホテル 営業戦略室 企画広報 斎藤 潤子・大塚 智生・小田 力・石川 綾子  
 〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

Tel 03-5322-8010 Fax 03-3346-2479

<http://www.keioplaza.co.jp>